



●マルイカ初心者は直「リ」がおすすり



●当日は反応が底から4~5メートルに浮くことが多く一番上のツノによく乗った



●マルイカの刺身は最高



●船内最初の1杯は胴長10センチ級



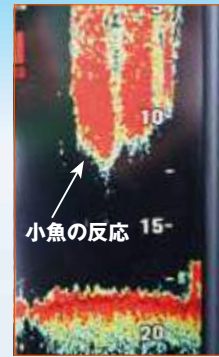
●着乗りでゲット!



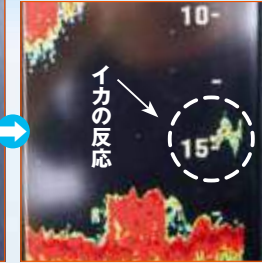
●大半の人が直挂り掛けて釣っていた



●当日はマルイカを待ちわびたファンで満員御礼



●当日は小魚の反応周りで、イカの反応が見つかることが多かった



●後半は名島周りで入れ乗りになる一幕も



●全国で即投入がイカ釣りの鉄則



●早朝は港前でシラス漁の船が操業していた



●前半苦戦も沖揚がり間近に3連チャン



●マルイカは3.5~4センチなど、標準オモリ40号



三浦半島葉山あぶずり港出船 水深10メートル台の浅場に大群接岸! 相模湾のマルイカ急上昇

撮影●本誌編集部

●港からすぐの名島周りが目下の主戦場

目下のサイズは胴長10~15センチ級の小型主体のため抱きが弱く難易度は高め。いい群れに当たると入れ乗りで6~7投できる流しもあるれば、一転して反応探索に時間を費やし着乗りのみの拾い釣りになるなど、一日の中で

2月ごろからなりを潜めていた相模湾のマルイカが6月中旬、突如として葉山沖周辺で釣れ始めた。取材した葉山あぶずり港のマルイカ船が狙うポイントには葉山沖の名島周りで鎌倉沖で、水深15~20メートル前後の浅場が中心。



●ジョーカー・ネオンスベシャル40は相模湾で実績が高いとか

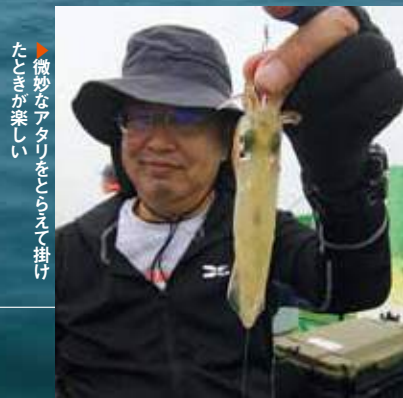
ネコの目のように状況が変わる。そのため釣果は、上級者が時合に釣り込みトッパで50~60杯前後を上げる人がいる一方、慣れていないと顔を見るのもやっとの展開。
大群で浅場に押し寄せた現況の群れを釣りきって終わるのか、はたまた新群れが続々と入ってくるのか、神のみぞ知るところだが、本誌が発売される7月以降も釣れ続けていることを期待したい。
(詳細は6ページ参照)



●三浦半島葉山あぶずり港・愛正丸 米山 信一郎船長



●15メートルで1杯目



●微妙なアタリをどうやって掛けたときが楽しい